

## 「英国での失敗、成功」

高校1年 I・H

私は、英国でのスケジュールに沿って時系列で、失敗したこと、成功したこと、やってよかったこと、よくなかったことについてお話したいと思います。

まずは、英国に行く前の話です。行く前はリスニングを毎日やって耳を鍛えようとか、文法の復習をしようとか色々考えていました。しかし、私が結局やったことは、1つでした。それは、「とっさの言い回し 英会話 気持ちを伝える 表現辞典 著：井口紀子」という本があるのですが、その中で使えるような単語に付箋を貼るということだけです。しかも、日本出発1週間前にやり始めました。これは、失敗か成功かわかりますか？これに関しては、失敗とも成功とも言えませんでした。数単語は実際に使いましたし、この本を見ているだけでも気持ちを落ち着かせることが出来たので、成功かもしれません。ですが、覚えた分が少なかった為に使う機会も少なかったです。もっと早くに始めればよかったという点では、失敗かもしれません。しかし、これはやる価値があったと思います。

ここからは、英国到着後の話です。

英国到着後の一日目は、ホテルに宿泊しました。私は、私のペアと「明日、ホストファミリーに会いたくないね」と何度も話しました。純日本人で、授業では、読み書きを中心に習い、外国人と面と向かって話したことがなかった私が外国人とコミュニケーションをとれるのかどうかと、とても緊張していたからです。後に、この心配は無駄だったとわかりました。

二日目は、ロンドン観光後、ホストファミリーとの面会式がありました。会った瞬間に、ホストファザーが私のあだ名を呼んでくださいました。自己紹介文に私のあだ名が書いてあったのを覚えてくれたのだと思います。それに比べて、私は、「Nice to meet you」の一言も言えませんでした。言おうと思えば言えたのですが、勇気が出ませんでした。これは失敗でした。この日の夜は、今日の反省を生かすと心に誓いました。

三日目は、初めての英語研修と英国人教員の指導によるグロスター大聖堂の案内がありました。英国の先生は、私たちのレベルに合わせて、ゆっくりしゃべってくださいました。とてもありがたかったです。授業の初めに自己紹介がありました。授業内での自己紹介は、はっきりと元気よく話す様に気を付けました。この自己紹介は成功しました。先生に褒められたわけではありませんが、私でも少しは英語で堂々と話せると、自信ができました。グロスター大聖堂観光は大変なことが多かったです。ゆっくり説明してくださるので、聞き取ることは出来るのですが、理解するのに苦労しました。大まかにでも先生が言いたいことを読み取ることが出来ないこともありました。しかし、私は負けませんでした。友人と先生の近くに居続けて一語も聞き落とさないようにしました。これは、行動に移して成功したことでした。先生のお話自体も面白いですし、理解するということが自体が楽しかったです。グロスター大聖堂はとても美しい建物でした。日本の歴史ある建物には、繊細さと美しさがあり

ます。この大聖堂にはそれに負けてない日本とは一味違った繊細さと美しさがありました。

四日目は、英語研修と、英国人学生とのディスカッションがありました。英国人学生とのディスカッションは日本人二人、英国人学生二人の二対二で行いました。互いに質問をして、それに答えていくという形式でした。これは、質問が尽きて話すことがなくなると、沈黙が出来ました。間ができないようにとペアと協力して、一生懸命質問を考えました。あきらめずに、会話を生み出したことは、やってよかったです。それとは別に、私は、英国人のオシャレさにとても驚きました。化粧もばっちり、洋服もへそ出しだったり女子中学生、高校生のレベルの高さにびっくりしました。流行の服や、化粧のコツでも聞いておけばよかったと思います。これは、小さな失敗です。

五日目は休日、初めて、一日中ホストファミリーと過ごしました。午前中はホストマザーにショッピングに連れて行って貰いました。Town Centerという色々なお店が立ち並んでいる場所があるのですが、ほぼ何も知らない状態で「二時間、フリータイムね。」と言われました。一軒一軒どんなお店かを確認しながら、ペアの子と二人で回りました。最初の一時間は何も分からず、ずっとさまよっていましたが、私たちは諦めませんでした。これは、やってよかったことだと思っていて、部活へのお土産や従弟へのお土産などいろいろ購入できました。諦めなかったおかげで、結局は楽しむことが出来たのです。

二日飛ばして、八日目の話をします。この日は、英語研修と、チェルトナムの市長訪問とマナーハウスにおけるアフタヌーンティー体験がありました。チェルトナムの市長訪問は希望制でしたが、良い経験になると思って立候補しました。実際にこれに立候補したことは後悔していません。ですが、市長への質問で難しい質問をしたのは失敗でした。質問は前日にホストマザーに手伝ってもらって、用意したのはよかったです。では、なぜ失敗だったと言いますと、難しい質問には理解が出来ない難しい答えが返ってくるからです。ほとんど何を言っているのか分かりませんでした。アフタヌーンティーはとても素敵な場所で行われました。まず、その建物自体がすごく広かったです。また、すごく歴史を感じる場所でもありましたが、実際に貴族が住んでいたそうです。ここでは、スコーンをいただきました。ドライフルーツがはいっているスコーンもあり、とてもおいしかったです。ですが、少し食べるのが上手ではなかったようです。手はべたべたになり、お皿の上は、スコーンやジャムなどが散らかっていました。これは失敗でした。素敵な場所にそぐうよう食べるべきだったと思います。

九日目は、英語研修はなく、英国人教員の指導によるシェイクスピアゆかりの地、ストラッドフォードを見学の後シェイクスピア劇場で「Julius Caesar」を観劇しました。ストラッドフォード巡りの時は、なるべく先生の話を理解できるように先生の傍らにいました。しかし、途中で先生と離れてしまい自力で見ただけで物事を理解せざるを得なくなりました。先生の傍を離れたのは失敗でした。観劇は、冗談抜きでセリフを理解することが出来ませんでした。昔の英語を使っていることもあって状況で何が起きているかを理解するほかありませんでした。そのため、他のお客様が笑っていた場面がいくつかありまし

たが、何がおもしろかったのかさっぱりわからない私たちは、いつも静かでした。一生懸命理解しようとしたことはやってよかったことだと思います。

十日目は、英語研修と乗馬体験とスタントン・ブロードウェイ回りがありました。英語研修は次の日にプレゼンテーションを控えていたので、それに向けた原稿づくりをしました。私たちが正しいと思って使った言葉でも結構間違いが多かったので、英国人学生に手伝ってもらいながら、原稿をつくりました。最初から最後までつきっきりで一緒に原稿を考えてもらいました。積極的にこれであるのかどうか聞いたことはやってよかったことです。そのおかげで完璧な原稿を作ることが出来ました。乗馬は大変でした。馬が走ると自分がとても揺れるのです。一頭につき一人ヘルプがついてくださいました。いろいろ簡単な指示を出してくださるので、それに従って回ってみたり、走ってみたりしました。少し緊張していましたが、途中からはとても楽しくなり、爽快な気持ちになりました。

十一日目は、英語研修と閉講式および、さよならパーティーがありました。英語研修は最後の英語によるプレゼンテーションがありました。内容は前日に完璧に作ったので、大丈夫でしたが、原稿ばかりに目がいってしまって、あまり皆の目を見て話すことが出来ませんでした。また、もう少し笑顔を取り入れればよかったと思います。この二つのことは失敗でした。笑顔でプレゼンテーションを行っている人は、とても感じがよかったです。さよならパーティーでは部活仲間と居合道を披露しました。リハーサルでやった技は晃華生にうけが悪かったので、このままだとホストファミリーにも喜んでいただけないと急遽やる技を変更しました。刀の打ち合いや死に役を取り入れました。死に役を導入することは、誰が勝って、誰が負けて死んだのかということが良くわかるので、死んだ瞬間に拍手がおこりました。技変更は成功でした。また、刀は、おもちゃを使用しました。技披露後に刀のおもちゃを男の子たちにプレゼントしたところ、早速遊んでくれました。刀のおもちゃを使用したことも成功でした。

一日飛ばして、十三日目のお話をします。この日は、午前中にホストファミリーとお別れをしました。私は最後に、ホストファミリーに感謝の気持ちを伝えようと決めていました。実際に伝えることが出来ましたが、感極まって泣いてしまいました。自分の気持ちを英語で伝えることが出来て良かったです。

次に、ホストファミリーと過ごした時間での失敗、成功についてお話したいと思います。授業後は、基本的にホストファミリーのお家の庭で、飲み物を飲みながらお話をしていました。夕食後は、ソファがある部屋でテレビをみながら会話をしていました。最初の数日はホストファミリーからの質問に答えているだけでしたが、途中からは、私たちから質問をするようになりました。自分たちから積極的に会話を生み出すようになったのです。これは成功の一つだと思います。それでも、ためらって言いたいことが言えない時がありました。それは、悔やまれることです。

今までで、沢山の失敗、成功を挙げてきましたが、その中で一番の失敗、成功について述べたいと思います。私が思う一番の失敗はご飯を食べているときにおいしいと伝えること

が出来なかったことです。どのご飯もおいしかったのですが、何か少し恥ずかしくて、おいしいと言えませんでした。せめて、お礼状でおいしかったですと伝えようと思います。次に、一番成功したことについて述べていきたいと思います。それは、緊張してまともに話せなかった私が自分の気持ちを最後にホストファミリーに伝えられたことです。感謝の気持ちを伝えるときも中々言い出すことが出来ませんでした。生徒の皆がバスに乗り始めたときようやく伝えることが出来ました。つたない英語でも伝わったと思います。先輩方の話や、ガイドは、「Yes とNoとThank you が言えれば大丈夫だよ」とよくおっしゃっていました。最初は本当に信じられませんでした。まず、何を言っているのか聞き取ることが出来なそうなのに、ましてや、YESやNOで乗り越えられるなんて絶対に出来ないと思っていました。しかし、それは本当だったのです。文法よりも、伝えたいという気持ちが大切だと身をもって体験することが出来ました。まず、話しているときに文法なんて気にしていません。短い2週間という期間でしたが、私は本当に様々な経験をすることが出来ました。外国人の方と会話をするということが少し、抵抗がなくなったと思います。また、諦めずに、粘っていれば道が開けることも分かりました。今までで一番濃い2週間を過ごすことが出来ました。ホストファミリー、先生、そして両親に感謝の気持ちを告げたいと思います。これからも積極的に英語に触れていきたいです。